

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970800086		
法人名	社会福祉法人 合歓木の会		
事業所名	グループホーム 百日紅の家		
所在地	高知県土佐清水市グリーンハイツ42-1		
自己評価作成日	平成25年11月22日	評価結果 市町村受理日	平成26年3月19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で利用者が穏やかに、ゆっくりと、その人らしい生活を送ってもらうよう職員は利用者の自尊心を大切に、自分の家族として係わりを持ちながら日々の支援に取り組んでいる。又、百日紅の家の秋祭りを通じて地域住民やボランティアの方々と交流したり、しみず幼稚園児と触れ合う機会を設けている。利用者様の希望や意向を大切に、自然環境に恵まれた庭で動物との触れ合いや日光浴等を行っている。出身地域へのドライブ等の支援に取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;lievosoCd=3970800086-00&amp;PrefCd=38&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;lievosoCd=3970800086-00&amp;PrefCd=38&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成26年1月17日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は高台にある団地の更に一段高い場所に位置し、裏山に続く庭には畑があり、テーブルや椅子が置かれ、兎も飼育して利用者の癒しに役立っている。団地には法人系列の幼稚園があり、運動会等の行事には相互に参加しあい、また、園児が散歩の途中に立ち寄って一緒におやつを食べるなど、日常的に交流している。また、団地内に同法人のグループホームが他に2箇所あり、合同の秋祭りにはボランティアや多くの地域住民が参加して、地域交流の場になっている。昨年からは管理者の呼びかけで避難訓練に区長が参加している。事業所は、ドライブ、買い物、外食、みかん狩りやイベントへの参加などの外出支援にも積極的に取り組んでいる。また、利用者の水分摂取や便秘にも注意を払い、認知症特有の不穏状態の解消につなげている。研修は管理者だけでなく職員も積極的に参加し、伝達講習を行って日々の業務に生かしている。事業所では、利用者は親、祖父母であるという考えのもと、利用者の尊厳を大切に言葉遣いや対応に気を付けて、理念や運営方針に沿った支援に取り組んでいる。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の理念を休憩室に貼り、職員が常に目に付くようにしており、又管理者、職員が声を掛け合って理念を生活に生かしている。ケア会議の時など理念に沿ったサービスが出来ているか話し合いを持っている。	事業所を共に暮らすひとつの家と捉え、互いにいたわり、地域と交流する旨の理念を休憩室に掲示し、ケア会議等で理念を振り返りながら意識づけている。気になる言葉遣いや対応があれば、自分の親に置き換えて考え、注意し合い、理念の実践に努めている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園の園児と日常的な交流を持ち地域との交流を持ち、ボランティアさんの受け入れを行い年に一度の秋祭りは当法人が盛大に行い地域の祭りとなっている。	自治会総会に出席し、市の清掃に参加するなど地域の一員として活動している。団地にあるサロンや幼稚園の行事にも毎回参加し、事業所合同の秋祭りには多くの地域住民の参加がある。地元のボランティアによる紙芝居の訪問もあり、日常的に地域と交流している。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運動会や秋祭りを通じて地域の方にホームに来ていただき認知症でも元気に生活できることの理解を働きかけている。又利用者が小学校の運動会、発表会、老人クラブの芸能大会の鑑賞などに出かけるなどの支援をしている。職員は介護予防の研修に参加し、在宅医療連携に職員が定期的に参加している。	/	/
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議でホームでの現状や問題点、外部評価の指摘点などを取上げ参加くださった皆さんからも知恵と意見を頂き、前向きに取り組んでいる。行政の方にも直接相談も出来るので助かっている。	運営推進会議は2カ月毎に開催し、事業所からの近況報告、外部評価結果や課題についても議題にあげている。しかし、議事録には意見交換の状況が十分に記録されていない。家族へは議事録の抜粋を送付して周知している。	議事録には、参加者との意見交換の内容を記録し、第三者が読んで分かりやすいように議題に沿った構成にするなどの工夫を期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議でホームの現状や問題点を相談している。時には電話で相談したり、窓口に向きアドバイスを頂き協力を頂いている。	運営推進会議で意見交換をするほか、事故報告書の書き方、生活保護制度の運用等、不明なことがあるときはいつでも、電話や担当窓口に向いて相談し助言を得ている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームでは職員の研修にできるだけ参加して頂き、インターネットでも介護教材ソフトを全員が使用し、勉強をしている。利用者のサービスの中での身体拘束のないケアについて、会議の中で話し合っている。	インターネット教材で6カ月間研修し、身体拘束について全職員が理解している。管理者が受講した研修は、ケア会で伝達講習している。言葉遣いについても上から押し付ける言葉は使用せず、利用者の要望に沿うことを話し合い、拘束のないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	全員が介護ソフトで学習し、又虐待に関する研修にも進んで参加し、虐待が起こらないように向けている。研修に参加した職員は研修報告を行い、皆で勉強会をしている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、話し合いの場を持ち、活用できるように努めている。研修に参加した職員は研修報告を行い、皆で勉強会をしている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	じっくり時間をもらい、不安にならないように十分な説明をし、理解を得ている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置き、遠慮なく意見をいただけるようにしたり、日常的に家族に来ていただき職員と遠慮なくいろいろな話ができる状況にあるので、それを参考にさせてもらっている。責任者の携帯電話を家族に伝えてあるのでお電話がある。職員が近況のお手紙を出している。	家族には面会時や電話で聞くことが多く、利用者には部屋で一对一で話を聞く機会をもち、本人の思いや意見を聞いている。家族会は運営推進会議のあと、家族の出席が多い時に開催している。玄関に意見箱も設置しているが、苦情等は出ていない。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、管理者と職員が気軽に話ができる関係にあり、良いと思われることは即座に実行できるようにしている。ときには勉強会をして職員の意見が発表できている。	ケア会や日々の業務の中で職員の意見や提案を聞いている。職員から介護上の提案があれば、他の職員の意見も聞き、取り入れている。日勤と夜勤の業務分担の方法を職員の意見で変更した例もある。利用者の受け入れや職員の異動にも職員の意向を聞いている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が楽しく働けるよう、頑張りによっては手当を支給したり、勤務時間、日数も個々の事情を考慮し柔軟に対応し、働きやすいと職員が言っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は在宅医療連携のメンバーとして定期的に研修に参加している。又、県内外の研修にも管理者のほか、職員も参加し、ケア会の場で発表をしている。又ホーム内でも、各病院の講師を招き研修をしている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームとの連絡協議会を2ヶ月に1回開催し、悩みの情報交換、勉強会をしている。市外からのグループホームがホームに研修に来ていた。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当時は特に不安がある為、本人の話を沢山聞き、要望などに耳を傾けその方のペースを優先した生活作りを心がけている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いで、家族が何を求めているか、困っていることや不安に思っていることに耳を傾け、話し合いをしていくことで家族に納得していただくようにしている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人さんと家族の気持ちをしっかりと受け止め、柔軟に対応している。必要に応じて、ケアマネジャーや病院の看護師、相談員からの情報を収集している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者に人生の先輩者として接し、日常生活の中で疑問に思うことを先輩者として意見をもらったり、利用者の様子を観察し、職員で気にかけて毎日過ごしている。方針にもある家族の一員であることを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にもたびたび連絡を取り、面会に来てもらったり家族が来たときはおもてなしの心を大切にしている。年賀状を出したり、利用者からの電話もかけている。行事にも参加してもらい職員と家族を合わせたもう1つの家族を目指している。プランにも家族の担当を入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつも通っていた美容院、商店、お墓参りなどできるだけ今までの生活が継続できるように努めている。	利用者のこれまでの人間関係等について、本人や家族等から話を聞き、情報を得ている。行きつけの美容院や自宅周辺にドライブに行ったり、お墓参りに行く等家族の協力も得て、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が部屋を訪問して悩みや不満の話を聞いている。気の合う人達と一緒にドライブに行ったり、席を隣にしたりして配慮している。職員は遠くから利用者の一日の感情の変化を見て職員同士で連絡を取り合い、気持ちが落ち着くように話をしたり、傍に座りスキンシップをとっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した方も、はがきや電話などでやり取りをつづけ、不幸時にはお見舞いに行ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族との話の中からどういうふうに暮らしたかを話し合い、その方の意向に沿った支援をしている。本人の思いが変化したときは、本人、家族と個別に話す機会を設け、本人の意向に沿ったサービスになるように努めている。	職員は毎日玄関を入るときから挨拶をし、利用者の表情を見て声かけしている。変化が見られる時は、居室或いはソファでスキンシップを取りながら話を聞いている。話ができない状態の時は寄り添って、思いの把握に努めている。ただし、把握した利用者の思いや意向の記録に至っていない。	利用者から把握した思いや意向を記録して共有し、ケアプランへつなげていくことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からも今までの生活を聞き取り、用紙に記入してもらったり、病院、ケアマネジャーさんからの情報提供も頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	どうい風に1日を過ごし、普段の心身の状態、何ができるかなどの情報を職員の中で常に共有し、よりその人の像がわかるように努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回ケア会議にて施設長、総括管理者を含む職員全員で話し合い、又、家族にも事前に電話またはお手紙などで要望などをお伺いしてより良いプランを作成している。	アセスメント、モニタリング、ケアプランは、ケア会議で職員全員で取り組んでいる。介護計画は基本的に1カ月毎のモニタリング、3カ月毎の見直しであるが、入退院等変化があった時は随時に見直している。見直し時は利用者と話し合い、家族には面会時に話や意見を聞き、プランに反映している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に判りやすく記入し、日々気がついたことを情報として話し合ったり、チェック確認(排泄、排便、個別ケアの確認)、口頭確認(水分補給量、食事の摂取量)をし、介護計画の見直しをしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人の気持ちや状況を中心に考え、歩行能力が弱まってきたらリハビリに通ったり、家族の要求で生活雑貨全ての買い物に行ったり、本人の要求でプールに連れて行ったり、あらゆるサービスを柔軟に行っている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前に生活していた町の民生委員さんが定期的に訪問して下さったり、地域の警察の方が訪問してくれている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望された病院にて受診するようにしている。夜間も24時間対応してくれている。	利用者、家族が希望するかかりつけ医で受診している。通院介助は基本的に職員が行い、市外の専門医の受診は家族対応であるが、事情によっては職員が同行している。受診結果は口頭で行うとともに、申し送りノート、日誌、個人記録等に記入し、情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて、普段気になっていることなどを相談して早めの解決を心がけている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になったら担当医師や看護師と家族を含めてみんなと話し合う機会を直ぐもうけてくれるので、退居にならないように治療計画を協力的に行ってもらっている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	普段からご家族と色々なお話もしている。90歳以上、又急変性のある病気をお持ちの方は、かかりつけ医とご家族、事業所で看取りの同意書をいただいている。	事業所の重度化対応指針に沿って入居時に説明している。医療機関との連携と協力を得て、医師の往診システムを作り、事業所では昨年からは90歳以上の利用者に、指針に沿った看取りの同意書もらっている。今までに看取りの事例はない。	今後予想される看取りに備えて、管理者だけでなく職員全員で看取りの研修や学習を重ね、看取りの体制を充実していくことを期待したい。
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルを作成し、初期対応の訓練を行っている。又、かかりつけ医による誤燕研修会では日勤、夜勤職員の全員の参加を募り研修会を行った。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、病院や地域の方々を含めた訓練も行い、協力をしていただけるようにしている。	火災を想定した避難訓練を年3回行っている。うち1回は消防署の協力を得ている。管理者の呼びかけで、事業所の自主訓練に区長の参加が得られている。消火器とスプリンクラーの設備点検は年1回行い、非常食は3～4日相当分を備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の今までの職業、性格、生き方などを頭に置き、一人ひとりを尊重した対応を心がけている。	利用者のこれまでの生活歴や生き方を尊重したケアを心掛けている。特に言葉遣いには尊厳を損ねないよう気を付けている。プライバシーの口外や、事業所内のことを関係者以外に話さないよう徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方を中心とした生活を目指しており、何がしたいか、何が食べたいか、何事も選べるように常日頃から職員との会話を多くしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の入居者の過ごし方はその時の入居者の状態で決めるようにし、食事の時間、入浴の時間、掃除の時間など入居者のペースをととても大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの個性を大事にし、化粧品や洋服を頼まれて買ってきたり、美容院でのカットや毛染めに連れて行ったり、できる限りの支援をしている。出かける時などには本人の好みの洋服を職員と一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり、盛り付けたり、テーブルを拭いたり、できることを探してもらっている。時には食材を皆で準備し、食卓を囲み焼肉を食べたり、お好みを焼きながら食べるなど全員で楽しんでいる。食器洗いも入居者が手伝ってくれる時もある。	毎日利用者と献立を考え、野菜切りや盛り付け、味見等できることを職員と一緒にやっている。食前には口腔体操をして、談笑しながら和やかに、職員も一緒に食事をしている。一部刻み食の利用者もいるが、職員に見守られ全員が自分で食事ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事前のアクエリアスのゼリー、糖尿の方にはお茶ゼリーを皆さんに飲んでいただいたり、野菜嫌いの方には野菜ジュースにしたり、パンの好きな方にはパン食にしたり、水分の少ない方には、みかんやOS-Iゼリーを飲んでいただいたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声を掛け合い、歯磨きの出来ない方には職員が洗い、全員が毎食後確実に磨いている。時には職員が舌の口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でトイレ誘導をしたり、夜間はポータブルを使用したり、なるべくオムツにならないように努めている。	日中は食事前の声かけとトイレ誘導を徹底し、また、利用者ごとに時間をみてトイレ誘導をしている。入院時におむつになった利用者が、退院後事業所で紙パンツに復した例もあり、現在おむつ使用者はなく、トイレで排泄できている。夜間はポータブルトイレを使用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方は、バナナやみかんを多く摂ってもらったり、運動量(散歩)を増やしたり、水分を多く摂ってもらうなど個別に対応している。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望や、その日の体調などを考慮して気持ちよく入浴できるように心がけている。	毎日午後に入浴時間帯を設けているが、夕方を希望する利用者には19時まで対応している。シャンプー、石鹸、入浴剤等本人の好みのものを使用し、気持ちよく入浴できるようにしている。少なくとも2日に1回程度入浴し、拒否する利用者には声かけを重ね、入浴につなげている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も興奮状態の場合などは家族に来てもらい、寝るまでついてもらっていたり、夜間、職員が安心してもらうように傍について手を握ったりしている。夜中にお腹が空いたと訴える方には一緒にお茶を飲んだり、御菓子をあげて気持ちを落ち着かせていただいている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を皆がいつでも見られる場所に置いてあり、又、薬が変更、追加になった場合にも申し送りノートなどで皆が理解できるようにしている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手先の器用な方には折紙を折っていただき、家族や社会福祉協議会に飾っていただいたり、幼稚園児にプレゼントしたり、計算が好きな人は毎日掛け算をして喜びを感じてもらったりしている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	自宅、地元へのドライブ、花見、外食(お寿司、モーニングなど)、市外へのお出かけ(みかん狩り、洋服の買い物など)などの支援をしている。	季節のいい時には毎日庭に出て、庭で食事をすることもある。ドライブは月に2回程度行い、その他買い物やモーニング、外食に出かけたり、みかん狩りや老人芸能大会、運動会等のイベントへも積極的に行っている。車椅子の利用者も一緒に出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて所持してもらって好きな物を買ってもらっている。不安な方にはお預かりし、その中から買い物を頼まれている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族が声を聞きたいとき、何か贈り物があったときには本人様にも出してもらって元気な声を聞かしている。お手紙や年賀状も出している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓から明るい日がさし、ゆったりできるようにソファからも広い庭が見られるようにしている。温度湿度にも気を付けて、快適に暮らせる雰囲気作りを心がけている。暖かい木の造りになっている。	玄関には利用者が活けた季節の花があり、壁面には行事の写真や利用者の手芸品等を飾り、明るい居間には食卓やソファを使いやすく配置して生活感のある、暖かい雰囲気になっている。空気清浄機を設置し、湿度調整もこまめに行い、過ごしやすく居心地のよい空間になっている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の上がり口に椅子を置き、外を眺めることで安らぎを持っていただいたり、庭にはテーブルや椅子を置き、おやつを食べながら日向ぼっこの出来る場所を用意している。歩行が困難な方には、状態に応じて手摺りを付けたりしている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋の入り口には本人の好みの暖簾を掛けたり、お部屋もその人の好みのタンス、テレビ、手作りのお人形、写真などその方が安心できるような場所作りを心がけている。	利用者に馴染みのある身の回り品や衣装ケース、家族写真等を持ち込み、レクリエーションで作った作品や絵、計算ドリル等を飾ったりして、その人らしく居心地よく過ごせる工夫をしている。各居室にも加湿器を置き、湿度に気を配っている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が困難な方には、状態に応じて手摺りを付けたり、部屋がわからなくなった方には部屋の前に写真を貼ったり、一人ひとりが暮らしやすいようにしている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				